

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 26 回 外的事象 PRA 分科会
議事次第

日 時： 2022 年 4 月 27 日(水) 13:30～16:30

場 所： WebEx 会議

配布資料

RK6SC 26-1	第 25 回外的事象 PRA 分科会議事録(案)
RK6SC 26-2-1	人事について
RK6SC 26-2-2	外的事象 PRA 委員名簿 2022/4/27 版
RK6SC 26-3-1	外部ハザード選定標準改訂作業進め方案
RK6SC 26-3-2	RK6SC25-5-1_SC86-3-07_“外部ハザードに対するリスク評価方法の選定に関する実施基準:2014”の改定について
RK6SC 26-3-3	RK6SC25-5-2_外部ハザード選定標準改訂作業方針案
RK6SC 26-4-1	地震 PRA 標準 標準委員会コメント対応表
RK6SC 26-4-2	地震 PRA 標準の誤記について
RK6SC 26-4-3	地地震 PRA 標準活用 WG の設置について

議題：

1. 定足数確認, 資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 外部ハザードのリスク評価方法選定標準 改訂
5. 地震 PRA 標準 関連
6. その他、次回日程

出席委員 (19 名)： 糸井主査(東大)、桐本幹事(電中研)、安達委員(テプシス)、井上委員(東芝 ES)、内山委員(大成建設)、織田委員(日立 GE)、国政委員(関電)、栗田委員(東電設計)、小林委員(中部電)、齋藤委員(東電 HD)、砂川委員(北海道電)、田中委員(MHI)、中島委員(電中研)、西田委員(JAEA)、橋本委員(電中研)、泥谷委員(NEL)、美原委員(鹿島)、山野委員(JAEA)、吉田委員(大林組)、

欠席委員 (名)：

出席常時参加者(3 名)： 倉本(NEL)、高橋(鹿島)、根岸(原電エンジニアリング)、

(1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 19 名中 19 名が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。また、資料確認が行われた。

(2) 前回議事録の確認

桐本幹事から、前回議事録の内容について説明がなされ、承認された。

(3) 人事について

佐藤委員の新任が承認され、井上医委員の退任が報告された。地震 PRA 作業会より、常時参加者の登録の報告があった。

(4) 外的ハザード評価方法選定標準 改定について

泥谷委員より、外的ハザード評価方法選定標準の改定方針等について説明が行われた。

改定作業の担当の割り振り等は資料検討の上、次回に行う事となった。

以下の議論があった。

- ・階層化については、地震 PRA と同様に 1 冊の標準の中で基準と指針を含むものとして、性能要求にあたるものは一般事項として箇条の最初に整理するとよいのではないか。

- ・階層化のルールメイキングされたものがあれば、参考にしたい。IRIDM 標準では、同様の議論があり、「総括事項」として記載されている。

- ・今、方針が明確になっているわけではなく、各標準で議論をして作っている。地震も一般事項を設けて性能規定を書く方向性でまとめている。

- ・前回説明のあった階層化の資料で、基準や指針の定義があったが、あれはすでに反映されているか？

→ 標準の基本的考え方にこれらの定義の記載が反映される予定。ただ、書式として手引に記載が作られているわけではない。これらからこれらの階層化対応の何例かを参考にコンセンサスができるものと思う。

- ・原子力安全検討会の「外的事象に対する原子力安全の考え方」を共有することが確認された。

(5) 地震 PRA 標準改定 標準委員会コメント対応結果

根岸常時参加者より、標準委員会コメント対応、誤記チェック結果、地震 PRA 標準活用 WG の設置についての説明があった。リスク専門部会に報告をすることが了承された。

以下の議論があった。

(標準委員会コメント対応)

・津波との「重畳」について、他に「誘発」「随伴」「複合」と言葉が複数あるように思われる。外部事象の技術レポートでは、「重畳」は使われていない。地震 PRA の中ではこれらの整理は今後されていくのか。

→ 再度全体を見直して適切な言葉に直していくことになるかと思う。例に挙げられた技術レポートの複合事象と誘発ハザードの表は非常に参考になるので、議論したい。

・「重畳」は結果の影響に着目した表現として使われるため、ハザードを表現するときには使われない。各人でも理解が整理されていないところがあり、その表についても IAEA SSG-3 の整理の記載（複合事象は全体を示している）とも異なった整理がされている。IAEA ドラフトでの整理も若干整合しきれていないようにも思うので、一度整理をすると良い。

・14 コメント（酒井委員）で SSHAC において、「データに戻って吟味する」は evaluate するという意味として記載すること。電中研報告で SSHAC の知見についてまとめた報告が発行されるので参照できる。→ 拝承。

・3 コメントなどの回答の「如何でしょうか」については「～します」と答える回答とすること。

・21 コメントの「波及的影響」は PRA で使う言葉か？ JEAC の耐震設計で専門用語として「波及的影響」がすでにあるが、ここでの意味とは違うと思われる。同じ言葉を違う意味で使われる問題もあるので検討してほしい。

（誤記チェック）

・特に質疑無し

（地震 PRA 標準活用 WG の設置について）

・WG の定義がないが、オフィシャルでは無いものとして活動するという理解か
→ そうである。

・②「事業者のための安全関連情報」とは具体的にどういうイメージか？

→ 自身に限らず国外などでの文献から必要な実例をまとめていくことを想定している。

・⑤「新検査制度の実施にプラスに」とは

→ 事業者に限らず、規制側も含めてアプローチをしていくのがこの WG 設置の目的。

・規制の検査制度を効果的にするためには、事業者側も規制を超えた内容での実施が必要である。事業者側が PRA を活用したリスクマネジメントを実施しつつ、結果的に⑤を目指すとするが良い。

・WG 設置をリスク専門部会で紹介するかは一旦持ち帰る。活動状況としては報告する。

(7) その他、次回日程

次回は 2022/8/4 の午後で調整。

以上